

オルビアワークショップ体験記

2025/09/01 ~ 2025/09/06

伊藤己織

はじめに



私達6人は2025/08/25 ~ 2025/09/07の14日間イタリアに滞在し、建築視察及びワークショップに取り組みました。人生においてこれほど貴重な二週間は今後見当たらないだろうと思えるほどに実りある、刺激的な日々でした。同行していただいた中満さん、藍谷先生、堀先生にも大変お世話になりました。

前半の一週間は建築視察に取り組みました。ローマ、バチカン、フィレンツェ、シエナ等の都市で、新旧含め様々な建築物に触れ、学びを深めました。建築を通じ、歴史・宗教・都市的観点からも刺激が多かったことが印象的でした。

後半の一週間は7大学合同のワークショップに取り組みました。国内外問わず、先生学生問わず、様々に交流し、各グループの発表で無事WSを終えました。最終日はサルディーニャ島のツアーへ行き、互いを労い親睦を深めました。本報告書は後半一週間のお話になります。最後まで読んで下さると幸いです。



サルディーニャ島

一週間に及ぶワークショップの舞台は、地中海で2番目に大きな孤島として知られる、サルディーニャ島。イタリア本土の西から200kmほど離れた場所に位置し、地形は山岳・丘陵が大半を占める。島は古代フェニキアからローマ、ジェノヴァ、アラゴンなど多様な支配を受けた歴史をもち、イタリア本土とは異なる文化・建築・言語が残存している素敵な島だった。

ワークショップ開始の前日。私達6人はサルディーニャ島に降り立った。早朝で人は少なかったが、道に置かれている什器の溢れだしが多いことに驚いた。その後、学生のうち2人は遺跡視察へ、残る4人は都市部、オルビアの街歩きへ。海で釣りをしたり、雑貨を買ったり、カフェで一杯飲んだり、住民のようにゆっくりと時間を過ごした。



サルディーニャ島の道にあるテラス

オルビア散策チーム：伊藤己、伊藤勇、斎藤、中筋



地中海での釣り



オルビアの通り



オルビアの路地

遺跡散策チーム：大池、中尾、先生方



ヌラゲ文明の遺跡



サッカルジア教会



教会内部の様子



オルビア

アルゲーロ

サルディーニャ略図

ワークショップ初日。といっても開始は16:30だったのでこの日も少し視察に。3人は街歩きと海水浴へ向かい、残る3人はサルディーニャ島の西北にある古都、アルゲーロへと向かった。アルゲーロはまち並みも海も教会も綺麗だった。食事終わりに道端で少年と出逢い、店員さんも巻き込んで一緒にボールを蹴るという微笑ましい時間があった。この日常を羨ましく思った。

アルゲーロ散策チーム：伊藤己、伊藤勇、中筋、先生2名



道端でのサッカー



通りの先に待つ教会



アルゲーロの海岸線



サン・カヴィーノ聖堂



聖堂内部（東西祭室式）



聖堂地下（レア入室）

まち歩き海水浴チーム：大池、斎藤、中尾、中満さん



現地教授にお勧めされたビーチ



大分・釜山大学含む先生方

視察も終わり、私たちは宿に辿り着いた。本ワークショップの主催はPNU（釜山大学）とサッカリ大学であり、オルビア市に新設される教育機関のスタートダッシュイベントとして始まったワークショップであった。そのため作業場も宿も初運営であり、ドタバタの中始まっている様子がなんとイタリヤらしく、面白く感じていた。



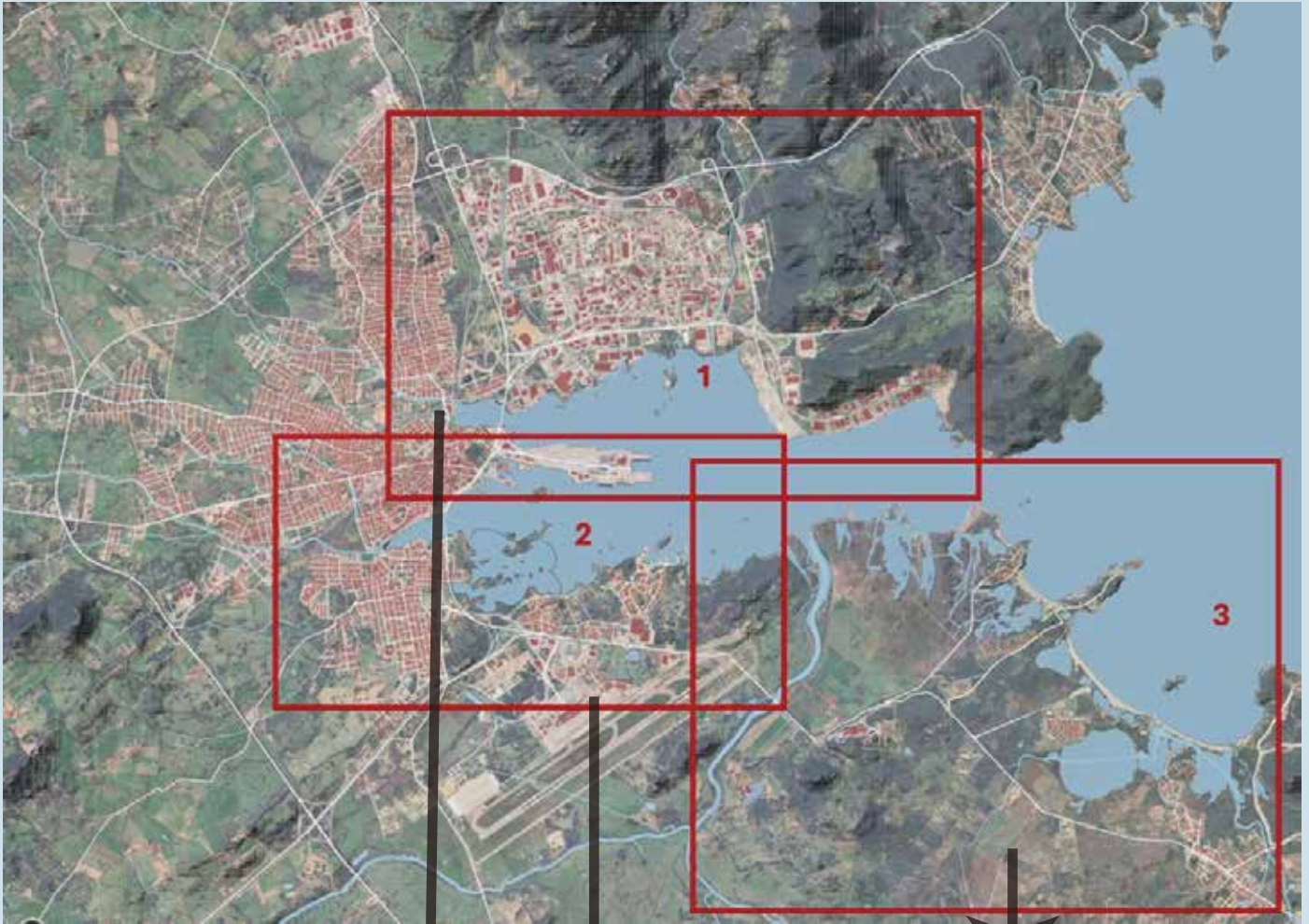
Geovillege（宿泊施設）のダイニング



サルディーニャ島式の乾杯

WORKSHOP CONTENT

ここで一度、本ワークショップの詳細について紹介する。提案の舞台は、地中海に浮かぶサルデーニャ島。その中でも、オルビアの近く下图3箇所が敷地として定められた。



エリア 1.
内湾の北岸：工業地帯と都市の統合



エリア 3.
パドロンジャーノス川における、都市と環境、川と三角州地帯



エリア 2.
内湾の南岸：都市公共空間における繋がりが



上記の3エリアを、7大学のチームがそれぞれ興味を持った分野ごとに分担していった。私達は、エリア1を伊藤己・斎藤・中尾が担当。エリア3を伊藤勇・大池・中筋が担当した。九州大学のメンバーは、それぞれのエリアに対する取り組み希望度からチームが割り振られたため、敷地への関心は高い状態だった。3エリアともかなり異なった性質を持つため、別のエリアに取り組んでいるチームとはかなり砕けた会話ができていたと思う。

ワークショップ2日目。キックオフイベントとして様々な解説が始まり、本格的にゴングが鳴らされたような気分になった。ホールに集められた際は、オルビア大学を始めとする7大学の代表教員に加え、「シプネス・ガルーラ」というサルディーニャ島の産業開発企業やオルビア市長が登壇しスピーチを拝聴。たまにくるイタリア語は聞き取れなかったが、様々な方の支援で成り立っていると感じ、これは人生最大規模のワークショップだなと考えていた。



ホールに集められた7大学の参加者



都市計画を解説する Boudour (右)



Student Hub (作業スペース)



地図等が用意された作業机

その後はさっそくグループでの作業を開始した。与えられた地図とトレーシングペーパーに既知の情報と新しい情報を描き込んでいき、日本で考えていた提案と異なる提案を敷地に落とし込んでいく作業だった。直近の一周間はイタリアで建築視察をしていたため、久しぶりとなる設計演習。感覚を取り戻しながら取り組み、お昼は豪華なビュッフェ形式でランチを楽しんだ。サルディーニャ名物の料理もいくつか見られ、どれもとても美味しかった。



中尾・伊藤己・斎藤の作業風景



伊藤勇・大池・中筋の作業風景



Student Hub での豪華ランチの様子



作業台の上でランチ

お昼を食べた後、私達のグループ3人は「敷地を見ないと何も分からない」と判断。公式の対象敷地ツアーの前に Student Hub を飛び出し、エリア1へ。工業地域の歩きづらさとボリューム感を学び、ここを人のためのまちにするため、何かしたいと心から考えるに至った。大事な時間だった。



エリア1の地図



エリア1の歩行者道路



エリア1の未利用地



エリア1の工場やオフィス群

敷地視察を終えた私達は Student Hub に帰り、いざ対象敷地ツアーへ。敷地は3→2→1の順番で移動し、専門家の解説を受けながら全敷地について肌で理解を深めていった。



エリア3の湿地



歴史的遺構である水道橋



エリア2の海岸 (対岸にエリア1)



エリア2の農村部



エリア1の海岸



エリア1にある工場隣接の港

Day0 Day1 Day2 Day3 Day4 Day5 Day6 Day7

ワークショップの本格始動が始まった。周りを見回すと、各国のグループが各々の提案に取り組んでいる様子が目に入っていた。私達も頑張ろうと思うことができた。



韓国・イタリア班の作業風景



韓国班の作業風景

この日はエスキスが行われたので、エリア1チーム、エリア3チーム共に、イタリア語と英語でエスキスを受けた。

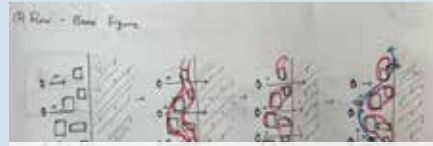


エリア3チームのエスキス風景



エリア1チームのエスキス風景

私達（エリア1チーム）のスタディ。工業地域という住民から隔絶された空間において、どのような手法を用いて人のための都市に生まれ変わらせるかに着目した。



平面のダイアグラムスタディ



俯瞰のダイアグラムスタディ



作業ノート

エスキスが終わった後は、自分たちの方向性を確認。風量解析に関して興味を持ってもらえたため、そこを補強しつつハード面の案を詰めていく方向性に決めた。斎藤がフローデザイナーを進めつつ、配置等を決めていく。



エスキス後の話し合い



風解析のデータ

Day0 Day1 Day2 Day3 Day4 Day5 Day6 Day7

昨日に引き続き、提案を示す作業を進めていった。このあたりから、ワークショップのために通うことが日常になってきて、いつもの生活のような感覚になっていた。みんなもそんな気持ちになっていたようで、食を楽しむ余裕がでている人がみられていた。写真は既に行きつけとなっていたスーパーの「スーパーパン」で買った昼食たち。



道路計画とダイアグラムと作業風景



お昼ごはんを食べる私達6人



夜も宿で作業する建築学生の鑑

みんなのやる気も徐々に高まり、どのグループも夜に宿で作業するようになってきた。私達も宿で作業をして、少しでも提案を前に進めようとしていた。他国の建築学生もすっぴんメガネのパジャマ姿で作業をしていて、どの国も同じだなと安心した。終わった？と話しかけると、全然終わってないよ〜と返ってくるのも、日本と同じだなと思った。



スーパーパンで買ったパエリア



美味しい肉とパンと林檎



パスタを作るイタリア人学生



日中韓で三カ国語を話しながら囲む食卓

Day0 Day1 Day2 Day3 Day4 Day5 Day6 Day7

プレゼン前日。日常になっていた日々も終わりを迎えるのだなという空気を感じつつ、いつものように Student Hub で切磋琢磨する。見慣れた光景になった。



見慣れた通学風景

私達は断面・平面図を描き終わり、表現方法を考える時間になっていた。時間はいくらあっても足りない。



Student Hub で断面図を制作している様子

本WSでは都市計画的な提案が求められていた。釜山大学のクーたちは全体を俯瞰した提案、私達は2軸にフォーカスした提案をしているなど、各チームで個性が見られた。



私達の2軸型提案



ボリュームを配置図で検討する様子

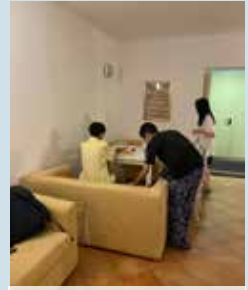
最終日前夜。どのチームも最後まで走り切りたいと考えていたようで、Geovillage (宿) の空きスペースで作業をしていた。下の写真はおよそ午前2時をまわっている。エリア3のチームは、即席でファミレス空間を作っていた。



エリア1九州大学チーム



エリア2大分大学チーム



エリア3九州大学チーム

Day0 Day1 Day2 Day3 Day4 Day5 Day6 Day7



エリア1担当の伊藤・斎藤・中尾

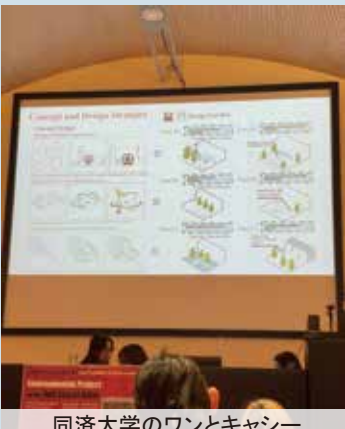


エリア3担当の伊藤・大池・中筋

プレゼン当日。発表が口頭ではなく動画に変更になったこともあり、ギリギリまで動画編集をしながら提出に滑り込んだ。海外学生のプレゼンからは、発表の態度や表現技法など、学ぶことが多かった。



発表後の九大生と大分大学のまほばばペア



同済大学のワンとキャシー



釜山大学のヒョンジュたち



発表後の公式懇親会



有志の非公式懇親会



パーに刻んだ名前

発表後は皆で談笑しながら互いを称え合った。各エリアごとに受賞者が出たが、韓国2チーム、中国1チームが最優秀に選抜。最優秀を一番に目指していたわけではないが、それでも悔しかったし、自身の不甲斐なさを実感した。

最終日は一日かけてサルディーニャ島のバスツアーが開催された。まずヌラーゲ文明の墓石を訪問し、遺跡研究を進めている学生、セバスチャーノから解説を浴びた。その後はサルディーニャ島の伝統的お菓子・お酒・料理などを良い天気の中で味わうことができた。



ガソリンスタンドで撮った写真。結局規定時間よりも皆長く滞在した。自由すぎ。



ヌラーゲ文明の円形建造物



海に向けた弓矢の形状をした墓石



くぐることで死者の世界を表現した意匠



伝統的な子豚の丸焼き料理



美味しかった伝統的菓子と伝統のお酒



数カ国で仲良く囲む食卓

後半はオルゴゾロへ。オルゴゾロは人口 4200 人程の小さなまちだが、あらゆる壁にカラフルなアートが描かれている「壁画の町」として知られる。その理由も面白く、不安感や不信感などを壁画として表現する文化があったのではないかと考察されている。政治的反発を描いたグラフィティアートも多く見られ、このまちの文化として考えさせられる側面であるように感じた。



ゲルニカを模した壁画とお土産屋



比較的ポップな内容の壁画



おそらく政治的な表現の壁画



おそらく戦争的な表現の壁画

サルディーニャツアーが終わった後は、仲良くなったメンバーみんなでレストランへ。アウローラが連れて行ってくれたピザ屋さんで、みんなで談笑しながら褒め合った。いつまでもこの時間が続けばいいなと思っていた。最後に皆で写真を撮って、元気でねと言って手を振った。



アウローラが好きなポテトピザ



ラストジュエートの乾杯



夜ごはんを食べたメンバーで撮った写真。みんな元気でね。

おわりに



長くなりましたが、ここまで読んでくださりありがとうございました。旅の中で私が度々実感したことの一つに、「限定性」というものがあります。建築素材や気候、風土、歴史といった、その時その場所でしか生まれない要素が建築に結び付いたとき、建築学、都市学、政治学、宗教学など、無数の学問による建物が生まれるというものです。ワークショップで国ごとに異なる設計へのアプローチを感じ、地域ごとに着目する限定性が異なることを実感しました。その結果、自分たちが学部で得た学びはまだ小さなものだったことという気づきに至りました。

今回、大変光栄にも持ち帰ることができた向上心を無駄にしないよう、これからも学生一同精進して参ります。九州大学基金様によるサポートがあってこそその経験であり、7大学の教員学生皆様に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

伊藤己織